

音楽の美しさを味わう力を育む音楽科学習指導

～要素シートを用いた比較聴取を活かした批評活動を通して～

要約

中央教育審議会の答申において、「鑑賞領域においては、音楽に関する言葉を用いながら、音楽に対して、生徒が、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力を育成するようにする。」とあり、鑑賞に係る改善の基本方針が示されている。このことは、多様な音や音楽を感じ取り、味わって鑑賞する力を、鑑賞ではどのようにして育成していくかを端的に示しているものである。鑑賞の授業では、①音楽を形づくっている要素や構造を聴取すること、②それらの働きによって生み出される曲想を感じ取ること、③解釈やイメージを言葉や文章で根拠をもって批評すること、を位置づけることが大切であり、それらの力を育成することが重視されることになった。これまで一般的に行われてきた「音楽を聴いてただ感想を書く」という鑑賞の授業ではなく、指導目標や指導内容とのかかわりから聴き取り感じ取ったことをもとに、音楽をどのようにとらえているかという批評を位置づけることが鑑賞の授業では大切である。

そこで、本研究では、要素シートを用いた比較聴取を活かした批評活動を行えば、音楽の美しさを味わう力を育むことができるという研究仮説を立てて研究に取り組んだ。

- 音や音楽を形づくっている要素や、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を知覚・感受し、言葉で表現するための手がかりとして要素シートを用いた比較聴取を行う。
- 要素シートを用いて比較聴取した内容を班で交流し、友達の発表を聞いて新しく気づいたことまとめる。
- 音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由をあげながら批評文を書く。

本研究を通して次の成果と課題が明らかになった。

- 比較聴取を行ったことはそれぞれの音楽の特徴を明確にする事ができ、生徒の鑑賞に対する意欲的を高めることにつながった。
- 要素シートを用いた比較聴取は、具体的に聴く視点を示すことができ、鑑賞活動が苦手な生徒も音楽の特徴をつかむことができていた。
- 比較聴取シートを用いた批評活動を行ったことは、音楽を鑑賞し感じたことや自分の考えに自信を持ち、意欲的に言葉で表現することにつながった。
- 要素シートに書いてある言葉を用いて感じたことを表現する生徒は増えたが、自分の言葉で表現する生徒が少ないため、要素シートの提示方法を工夫していく必要がある。
- 要素シートに更に多面的に音楽の美しさを感じ取ることができるよう、聴き取る要素、構成、形式、テクスチャなどといった項目を増やしていく必要がある。
- 批評文では、物語のあらすじや、鑑賞しての感想だけを書いている生徒もおり、批評文のプリントの工夫や、第一次、第二次のプリント、まとめ方の工夫等が必要である。

キーワード 要素シート 比較聴取 批評活動

1 主題設定の理由

(1) 音楽科学習指導の動向から

中央教育審議会の答申において、「鑑賞領域においては、音楽に関する言葉を用いながら、音楽に対して、生徒が、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力を育成するようにする。」とあり、鑑賞に係る改善の基本方針が示されている。このことは、多様な音や音楽を感じ取り、味わって鑑賞する力を、鑑賞ではどのようにして育成していくかを端的に示しているものである。鑑賞の授業では、①音楽を形づくっている要素や構造を聴取すること、②それらの働きによって生み出される曲想を感じ取ること、③解釈やイメージを言葉や文章で根拠をもって批評すること、を位置づけることが大切であり、それらの力を育成することが重視されることになった。これまで一般的に行われてきた「音楽を聴いてただ感想を書く」という鑑賞の授業ではなく、指導目標や指導内容とのかかわりから聴き取り感じ取ったことをもとに、音楽をどのようにとらえているかという批評を位置づけることが鑑賞の授業では大切である。

(2) 生徒の実態から

事前の実態調査の結果、音楽を鑑賞することにおいては70%の生徒が「好き」と回答し意欲的に鑑賞活動に取り組んでいる。しかし、「音楽を鑑賞するとき意識していることは何か」との問いには、「曲のイメージ」55%、「曲を形づくっている要素」58%、と約半数の生徒しか音楽を形づくっている要素や構造を聴取すること、それらの働きによって生み出される曲想を感じ取ることができていない。また「あまり何も意識していない」と回答した生徒は18%にも及んだ。解釈やイメージを言葉や文章で根拠をもって批評することについては、「音楽を鑑賞して感じたことや考えを自分の言葉で表現することは好きですか」との問いに31%しか「好き」と回答しておらず、書くことに苦手意識が強い。その理由として「感じる事はたくさんあるが、言葉にするのがむずかしい」、「どのように書いたらいいのかわからない」、「人にわかるように伝えることが難しい」、「自分の意見に自信がない」などがあげられた。

実際の鑑賞の授業の際には、音楽を聴く視点が分からず戸惑っている生徒や、音楽の特徴や雰囲気を感じ取ってはいるが、音楽的な表現で言語化することができない生徒が多く見られる。

このことから、音楽を聴いて感じ取ったことを言語化するために要素シートを用い、比較聴取を通して、鑑賞するポイントを明確にしながらかき取り、それを言語化したものを根拠に音楽に関する言葉を用いながら自分なりに批評する活動を行えば、「音楽の美しさを味わう力」を育むことにつながると考えた。

2 研究主題・副主題の意味

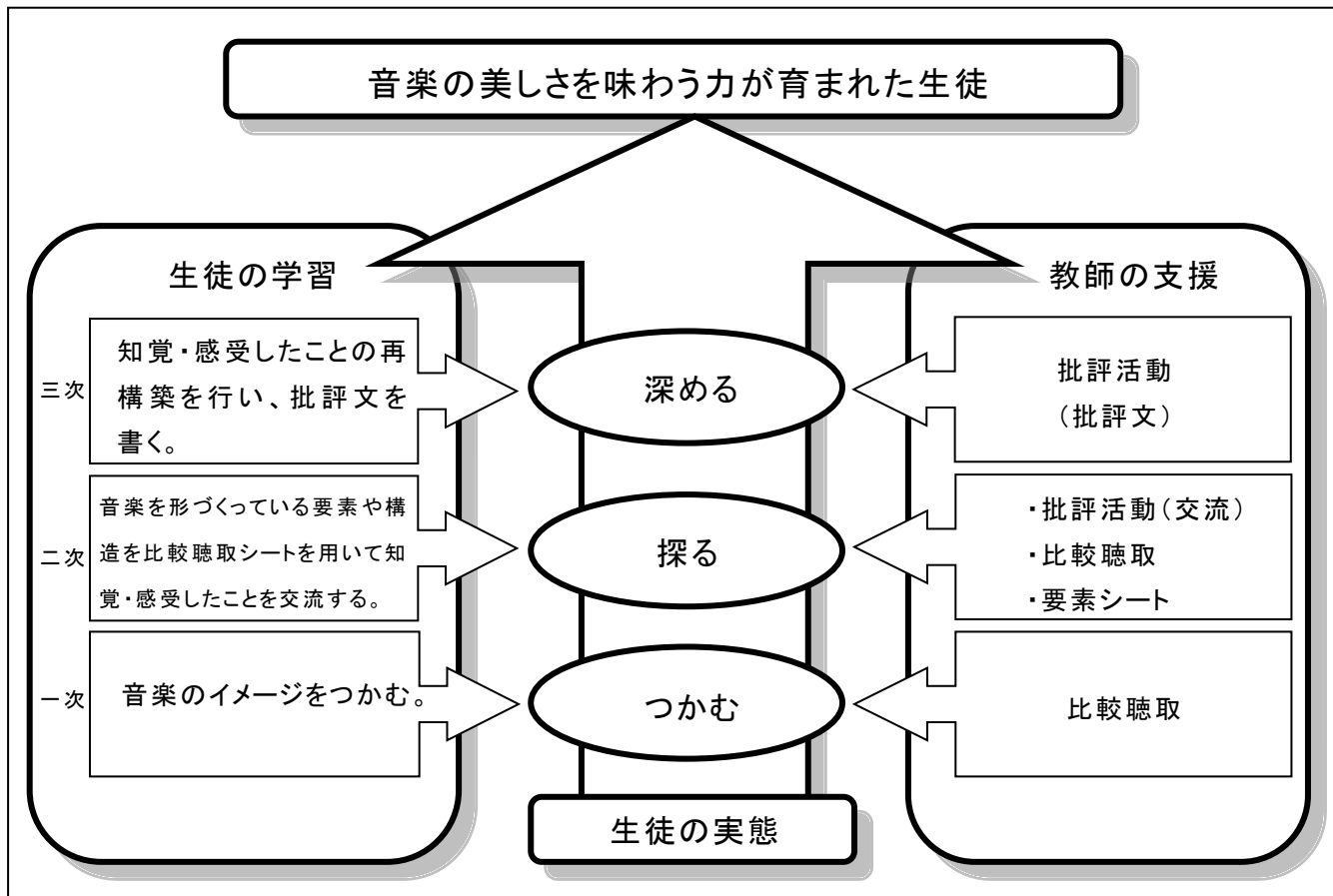
(1) 研究主題の意味

○「音楽の美しさ」とは、音楽の構成要素や表現要素が有機的にかかわって醸し出される、その音楽固有の雰囲気、曲想、豊かさなどを意味している。(平成17年度福岡教育大学三附中学校 研究紀要) また、「味わう」とは、対象から感じ取ったものの価値を自らの感性によって確認すること(中学校学習指導要領解説音楽編)を意味する。そこで本研究でいう、「音

(2) 検証の内容と方法

検証内容	検証方法	評価基準	
音や音楽を形づくっている要素を知覚・感受することができている。	比較聴取シート (批評活動 交流活動)	A	音楽の諸要素を3つ以上聴き取り、その中に自分の言葉で感じたことを書いている。かつ友達の見解から知覚、感受の広がりが増えている。
		B	音楽の諸要素を3つ以上聴き取っている。かつ友達の見解から知覚、感受の広がりが増えている。
		C	音楽の諸要素の聴き取りが2つ以下である。または友達の見解からの知覚・感受の広がりが少ない。
音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由をあげながら、言葉で表現し他者に伝えることができる。	批評文	A	自分にとっての価値について、音楽を形づくっている要素や構造から3つ以上、特質や雰囲気及び曲想から2つ以上書けている。
		B	自分にとっての価値について、音楽を形づくっている要素や構造から1～2つ、特質や雰囲気及び曲想から1つ書けている。
		C	自分にとっての価値について、音楽を形づくっている要素や構造から客観的な理由が書けていない。

6 研究構想図



7 研究の実際と考察

実践1 「総合芸術の音楽を味わおう」

① 第一次

歌劇を構成する様々な芸術要素を感じ取り、オペラについてのイメージをもつことができる。

第一次では、歌劇がどのようなものなのかを理解するために、歌劇「アイダ」第2幕第2場の一部とベートーヴェン作曲「交響曲第9番合唱付き」との比較聴取を通して、歌劇を構成する様々な芸術要素（音楽、美術、舞踊、演劇、文学）を感じ取り、オペラについてのイメージをもつことができることをねらいとした。

比較聴取では、「交響曲第9番合唱付き第4楽章」と歌劇「アイダ」第2幕第2場とを比較した後、オペラの特徴をまとめ、音楽、美術、舞踊、演劇、文学といった芸術要素が歌劇を構成していることを感じ取らせた。[資料2-1]

[資料2-1] オペラとオーケストラの合唱を比較聴取した学習プリント

○ AとBの音楽の違いについて考えよう。		○ Bの音楽の特徴をまとめよう。	
A オーケストラ	B オペラ	Bの音楽の特徴をまとめよう	
オーケストラのまわりに歌を歌う人がいる 指揮者がいる。 中心が下がっている 行進の	踊ったり、演技をしたりしながら歌っている。 楽器が見当たらない。 指揮者もいない。	・歌いながら踊ったりしている。 ・楽器を吹く人の姿がない ・衣装は派手で華やか。 ・セリがある。	

② 第二次

物語の場面に合わせた様々な表現について感じたことを交流することで、新たな価値に気づくことができる。

第二次では、物語の場面に合わせた様々な表現について感じたことを交流することで、新たな価値に気づくことができることをねらいとしている。そのためにまず、「アイダ」の演奏を聴いて、どの場面の音楽かを考え、物語の場面に合わせた表現の工夫について学習していくことを示した。そして、「アイダ」のあらすじを場面絵を使って確認した後に、2つの場面を鑑賞し、場面ごとの登場人物のそれぞれの心情を考え、心情に合わせた音楽の表現の変化、(音色、リズム、強弱、速度、旋律)について考えていく活動を行った。その中で、感じ取った音楽の構造を言語化するために音色、速度、強弱、リズムの変化を書いた、要素シートを用いて、生徒が音楽を聴いて感じたものと近い言葉を選び、音楽の表現の変化を感じ取らせる。[資料2-2] 最後に、物語の進行に合わせた音楽の表現の変化について交流する。ここでは、個人で考えた音楽の構造や表現の変化を班で交流し、交流を通して新しく気づいたことを比較聴取シートに記入し考えを深めていく場面を設定した。[資料2-3] 生徒は場面に応じて、音色、リズム、強弱、速度、旋律の変化をヒントカードを参考に意欲的に比較聴取シートに書くことができていた。

[資料2-2] 生徒の比較聴取シートの記述例

記号	場面	音楽の特徴	記号	場面	音楽の特徴
A	(アイダ) 悲しい おどろき	低くて暗い音。重たい音。 シンバルのほじけるような音。 最初はたしん通く、中間は急にはやく、最後はまた通くた。	A	(アイダ) 「せせここに？」 とかどろいいる 気持ち	急に速くなったり遅くなったりする。 重いカンゾ代した。 リズムも一定ではなく変化が激しかった。
B	(エジプト軍) うれしい、大興奮	初めは打楽器シンバルのめだち、中間は管楽器トランペット、鋭くつめて弦楽器の音がめだちてきえる。トランペットの音によって、音楽が明るく元気な音楽にまこえた。最後は一定の速さに変化はなれた。	B	(エジプト軍) 固全体で声を 上げて喜んでいる うれしい気持ち	固の人たちの、安心と共に勝つことのうれしげな感じ。こころがめだちがする。 音の高い楽器が使われている。そこそこ楽しげなイメージがわいてくる。

[資料 2-3]比較聴取シートの記述例

○ 友達の発表を聞いて、新しく気づいたところ

さん・くんの
「急に速度がはやくなり、音が高くなる場面があるという」 意見はなるほどと感じた。

○ 友達の発表を聞いて、新しく気づいたところ

さん・くんの
Bには弦楽器が使われていて、感情を声で表現しているという 意見はなるほどと感じた。

③第三次

音楽の要素や構造を理解した根拠のある批評文を書くことで、音楽の美しさを味わうことができる。

これまでに学習したことをもとに、オペラ「アイダ」について、簡単なあらすじを確認し「アイダ」の第2幕第2場を鑑賞した後、音楽の要素や構造を理解した根拠のある批評文を書くことで、音楽の美しさを味わうことができることをねらう活動を行なった。その際、オペラを鑑賞して感じたこと、思ったことを、自分が気に入ったところ、ぜひ紹介したいことをアイダの音楽の特徴（音色、速度、強弱、リズム、旋律など）を用いて書くことを条件として批評文を書いた。[資料 2-4]

[資料 2-4] 批評文の記述例

アイダというオペラはアイダトランペットというアイダでしか使わないトランペットを付けたあざむきのオペラです。
私はアイダでお気に入りの場面があります。それは、補席の中に夕がいのアイダが見つかる場面です。
初場面は低い音や不規則なリズムだったりしてとても興味を感じました。低い音や不規則なリズムがアイダの不安や心配などの気持ちを表していると思います。そして、アイダのとて高い音程で歌うところはエジプト王の王に訴えているように感じました。
そして、声量やアクセント、強弱などで登場人物の様子や心情をあらわしているように感じました。見ていて、「あ、アイダは今こんなふうを思ってた」、「こっちは悲しんでいるんだ」と自分の中で人物の気持ちを整理して書くことができました。

みなさんもぜひ1度聴いて下さい。

音楽の要素や構造を理解した根拠

- ・低い音
- ・不規則なリズム
- ・強弱

アイダの音楽の特質や雰囲気及び曲想

- ・アイダトランペット
- ・不気味な感じ
- ・不安や心配な気持ち
- ・訴えている
- ・悲しんでいる

知覚・感受の広がり（再構築）

- ・高い音程
- ・声量
- ・アクセント

<実践1>の考察

生徒が物語の場面に合わせて変化する、音楽の要素とかかわり合わせながら音楽の多彩な表現を感じ取る場面では、生徒は要素シートを基に聴きとったことを学習プリントに記入していたが、音楽をどの視点で鑑賞したらよいか分からない生徒も見受けられた。また、物語の進行に合わせた音楽の表現の変化について交流する場面では、教師からの交流に関して、具体的な交流の視点がなかったために、生徒が何を交流したらよいか戸惑ってしまう場面も見られた。それをもとに音楽を鑑賞する際には「音色」、「リズム」、「強弱」、「速度」、「旋律」と鑑賞する

ポイントを明確に提示し鑑賞させることと、班で意見を交流する場面でも、何について交流するのかを明確に指示して実践2を行うことにした。

実践2 「日本の伝統音楽に親しもう」

① 第一次

歌舞伎の様々な芸術要素を感じ取り、歌舞伎についてのイメージをもつことができる。

前題材の「総合芸術の音楽を味わおう」の学習をふまえ、本題材では日本の伝統芸能の歌舞伎を取り扱った。実践1の第一次で学習した歌劇の特徴(音楽、衣装、舞台のセット、演技)を振り返りながら、歌舞伎「義経千本桜」「連獅子」を鑑賞し、歌舞伎と歌劇を比較しながら歌舞伎のイメージをつかむ学習を行なった。[資料 2-5] そして歌舞伎の特徴である三味線音楽や大鼓、小鼓、笛、三味線などの演奏楽器、場面の描写に使われる黒御簾音楽、場面の効果を高めるツケ、独特な化粧の隈取り、歌舞伎舞踊、せりやすっぱん、廻り舞台などの舞台装置、見得や六法などといった演技法を学習した。

[資料 2-5] 生徒の学習プリントの記述

○ 歌舞伎とオペラの演奏の違いについて考えよう。

	オペラ	歌舞伎
伴奏は?	オーケストラ	大鼓、三味線、笛
舞踏は?	バレエ	舞(くまり)
舞台セットは?	大道具、小道具	「通し物」がある。幕の下から上げてきた。幕の上から通し物やも出てくる。
演技は?	抑えながら	手を振りまわす。ツケをしながら
衣装、化粧は?	洋服、お洒落、帽子	お化粧、顔と髪に白い塗りをあびせたり

② 第二次

長唄の特徴を感じ取り、感じたことを交流することで、新たな価値に気づくことができる。

第二次では、歌舞伎の伴奏音楽である、長唄の特徴を感じ取り、感じたことを交流することで、新たな価値に気づくことができることをねらいとして学習を行った。そのためにまず、「勧進帳」の「寄せの合方」を聴き、歌い方にどのような特徴があるかを考え、唄方の特徴でもある「産字」や「節回し」特徴を学習した。そして「勧進帳」のあらすじを簡単に確認し、義経一行が刀に手をかけ富樫に詰め寄ろうとする「詰め寄せ」の場面と、関を無事通過し主君を打ったことを弁慶が義経に詫びる2つの場面を鑑賞し、それぞれの場面の雰囲気味わい、雰囲気に合わせて変化する三味線の音色や強弱、速度を聴き取っていった。その際、歌舞伎の学習に合わせて修正を加えた要素シートを使用し、感じ取った音楽の構造を言語化していった。[写真 1-1]そして場面ごとに感じ取った雰囲気や音楽の構造(音色、強弱、速度の特徴)を班内で発表し、交流を通して新しく気づいたことを比較聴取シートに記入し考えを深めていく活動を行った。[写真 1-2] [資料 2-6]



[写真 1-1]
要素シートを用い比較聴取シートに記述する様子



[写真 1-2]
比較聴取シートを活かして班で交流する様子

〈実践2〉の考察

場面の雰囲気味わい雰囲気に合わせて変化する音楽の変化を聴き取る活動では、実践1の音楽をどの視点で鑑賞したらよいか分からないという課題より、聴き取って欲しいポイントを音色、速度、強弱と区切り表にして修正を加えた比較聴取シートを使用したため、実践1の第二次よりも明確に考えを書くことができていた。また、具体的な交流の視点がなかったために、生徒が何を交流したらよいか戸惑ってしまったという課題も、「長唄の音楽の変化について交流すること」と交流のポイントを絞ったので、友達からの意見の知覚・感受の広がりが見られた生徒が見受けられた。さらに、要素シートを用いて比較聴取した内容を班で交流し、友達の発表を聞いて新しく気づいたことをまとめたことで、音楽を形づくっている要素や構造、知覚・感受したこと、音楽の特質や雰囲気及び曲想などについて再構築したことを批評文に書くことができていた。しかしながら、実践2の第二次でも、要素シートを使い、感じ取ったことを言語化した。要素シートに書いてある言葉を書くことができる生徒は多くいるが、自分の言葉で書く生徒は大きく増加しなかった。

8 研究の成果と課題

[資料 3-1]は、「音や音楽を形づくっている要素を知覚・感受することができている」、[資料 3-2]は、「音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由をあげながら、言葉で表現し他者に伝えることができる」の検証結果である。[資料 3-1]では評価基準Aが9%増加、Cが9%減少したことより、「音や音楽を形づくっている要素を知覚・感受することができる力が高まったと考える。

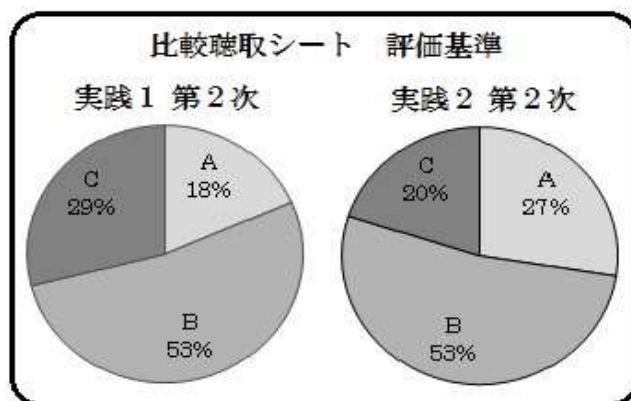
[資料 3-2]では、評価基準Aが2%、Bが5%増加し、Cが7%減少したことから、「音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由をあげながら、言葉で表現し他者に伝えることができる」力が高まったと考える。

[資料 3-3]は、アンケートの事前、事後との比較であり、「曲のイメージ」、「曲を形づくっている要素」「音楽のつくり」が事後の数値が増加しており、「あまり意識していない」の数値は減少している。このことから、生徒は音楽を鑑賞する際、ただ何となく鑑賞するのではなく、様々な要素を意識しながら鑑賞することができるようになった。

また、[資料 3-4]より、比較聴取シートを用いた批評活動を行ったことは、音楽を鑑賞し感じたことや、自分の考えに自信を持

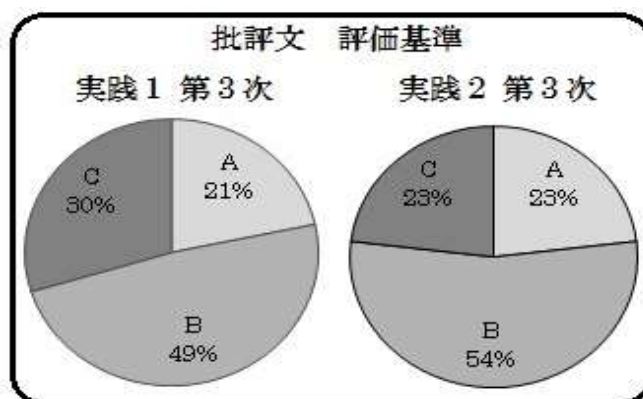
[資料 3-1]

音や音楽を形づくっている要素を知覚・感受することができている。



[資料 3-2]

音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由をあげながら、言葉で表現し他者に伝えることができる。

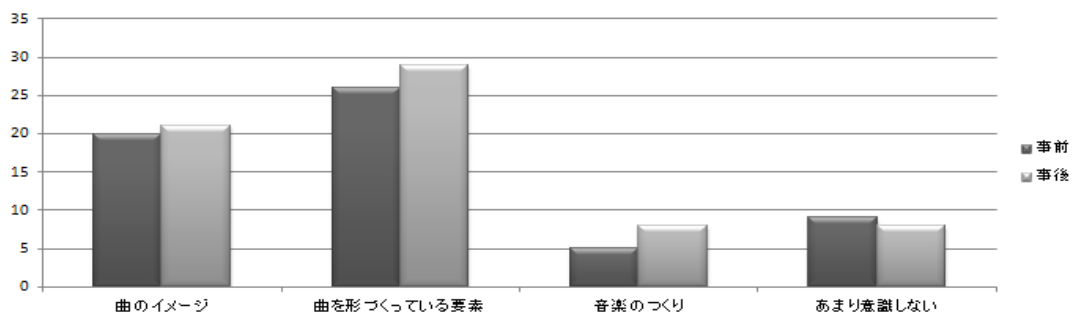


ち、意欲的に言葉で表現することにつながった。

これらのことより、生徒は音や音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、自らの感性によってその価値を判断することが少しずつできるようになったと考えられる。

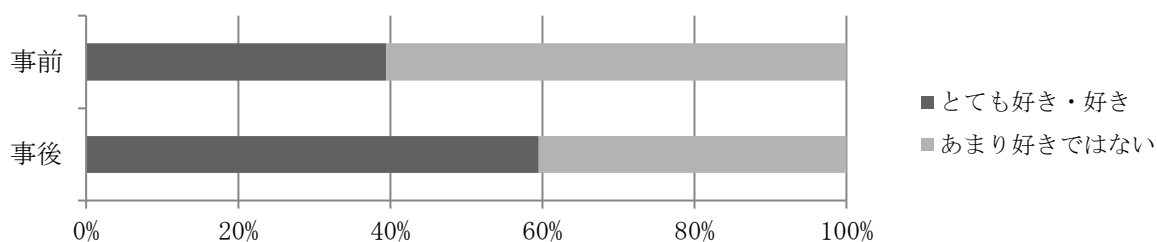
[資料 3-3]

あなたが鑑賞の授業でいつも意識していることは何ですか？



[資料 3-4]

鑑賞して感じたことや考えを、言葉で表現することは好きですか？



(1) 成果と課題

○比較聴取を行ったことはそれぞれの音楽の特徴を明確にする事ができ、生徒の鑑賞に対する意欲的を高めることにつながった。

○要素シートを用いた比較聴取は、具体的に聴く視点を示すことができ、鑑賞活動が苦手な生徒も音楽の特徴をつかむことができていた。

○比較聴取シートを用いた批評活動を行ったことは、音楽を鑑賞し感じたことや自分の考えに自信を持ち、意欲的に言葉で表現することにつながった。

●要素シートに書いてある言葉を用いて感じたことを表現する生徒は増えたが、自分の言葉で表現する生徒が少ないため、要素シートの提示方法を工夫していく必要がある。

●要素シートに更に多面的に音楽の美しさを感じ取ることができるように、聴き取る要素、構成、形式、テクスチュアなどといった項目を増やしていく必要がある。

●批評文では、物語のあらすじや、鑑賞しての感想だけを書いている生徒もおり、批評文のプリントの工夫や、第一次、第二次のプリント、まとめ方の工夫等が必要である。

<参考文献>

中学校学習指導要領解説音楽編

平成 17 年度福岡教育大学三附中学校 研究紀要

中学校学習指導要領の展開 原田徹/編著